料理のいろ〳〵

石井泰次郎

料理の控帳の中より、手かるにして、誰にもつくり得らるゝものを抄出して記す

○雞飯の炊やう

此飯を炊には、先ゞ雞の毛を去り、腸を出し嘴及び肛部を去り、水にてよく洗ひ、肉を殺ぎ取り宜しきに切り、鍋にて湯煮し

雞の大骨を去り、其他はよく敲き、小さく丸め交ぜ入るもよし

其煮たちたるところへ、雞卵の白身を入れ搔き廻せばわくは上に浮く、之を拯り捨て充分湯でゝのち毛篩にて裏漉となし、其汁に鹽を少し入れて飯を炊くなり

水加減は常の飯を炊くに異ならず、此煮汁と水とを以て水加減とす

而して湯でゆげたる雞肉等は、別に木耳のせん抔を混合して醤油酒等を以て、よき味に煮揚げ、偖飯の炊けたるとき販櫃に移すに、飲を一段煮上げの雞を一段と段〳〵に移し交ぜ又黑胡麻を散布して蓋をおし暫くむぎ椀に飾ふときよく攪ぜて盛るべし、味ひ尤も佳なり、但し筍及び蕨等を交せ入るもよろし

○筍飯の炊きやう

此飯を炊くには酒と醤油鰹節の煮汁及び水等を調和し、よき鹽梅となし、これにて飯を炊くなり尤も水加減は常の飯を炊くに異ならず、偖又筍の皮を剝き、よく洗ひ細かにせんに切り、鱗節の煮汁醤油酒砂糖などを以てよき味に煮付け、右雞飯の如く櫃に移すとき混合して後ち椀に盛るなり、

○若布株飯の拵へやう

此飯は常の如く炊き、偖若布の根株の砂を悉く洗ひ、沸湯をかけて後、みじんに敲き細かなるをよしとす、又鯛の刺身などを混合して、之と共に醤油、酒に浸しおき、飯を椀に盛るとき、よく攪拌し、飯に盛り交ぜるなり、味ひ淡薄にして、甚だ上品のものなり、

○酒粕汁の拵へやう

よき酒粕の汚物を洗ひ去り、細かにきざみ、味噌

と當分にして擂鉢にて摺り交せ鰹節の煮汁にてのばし、これに葱の五分切りか魚類なれば鰯を二三分位の筒切其他何魚にてもさいの目切にして、少し入れ、或は又豆腐のさいの目抔にても少しいれ煮立て用ゆべし、又此粕汁を客に進むるには、摺りて毛篩にて漉し、藥味を入れ煮立て用ゆべし、

○泥鰌汁の拵へやう

普通泥鰌汁の拵へやうは、先づ味噌をよき加減に摺り、水或は湯にてのばし煮るなり、又泥鰌は、折々水をかへ充分泥を吐せ置きたるを、笊に揚げ若し死したるものあれば、之を除くべし、殊に夏季のときなどは、生きたるものゝみを遣ふべし、水を絶ちて丼樣の器に移し酒を少し入れ泥鰌を傷め酒を入るゝ時は擂鉢或は鍋に入れて、上より蓋をなしてのち酒を入るべし、飛び出るの患なし或に鹽にて傷め汁の煮立ちたる時に、此泥鰌を入れ猶よく煮て食するを通常の仕方とすれども、茲に一種の明法あり、其仕方は泥鰌を前の如く充分泥を吐せたるを笊にあげ、水を絶ち、別の器に移して此に玉子を割りよくかきたてゝ入る、

卵の量は泥鰌の多少により見計ふべし

れは其玉子を呑みて、弱るとき汁を入れ煮るなりさすれば泥鰌の腹中に卵子入りて、味ひ甚だ佳なり、其他種々の煮方もあれば追々にのすべし

○筍鐵炮燒の拵へやう

筍を皮のまゝ根を切り去り、中のふしをぬきさり先きの二三節をのこし、切口より醬油に鹽を加へて、つぎこみ、大根にて醬油のもれぬやうふさぎ、竈にて藁火をたき、其灰の中に埋め蒸し燒きにするなり、而して燒けたる時分取出し、皮をむき小口より宜しきに切り、食すれは醬油しみこみよき鹽梅となり、風味至て佳なり、尤筍は新鮮なるをよしとす、

○阿蘭陀味噌一名てつかみそと云ふ拵へやう

午蒡と鰯を細かに刻み、胡麻油にていり、此に味噌を入れ味淋を少し加へ、こげぬやう中火にて搔き廻しながら煮詰め、おろし際に粉蕃椒を少しまぶし、攪拌て食するなり、之を貯へおくも味ひ變

ることなく常菜によし、又田舍のてつか茄子は、茄子の出來る時分には、至極常菜によろし、其拵らへ方は、右と同しく茄子を小角に切り胡麻の油にていりのち、味噌と味淋を入れ粉蕃椒を加へるなり、然れども長く貯へおくはよろしからず、但辛味を好まぬ人は入れぬもよろし、

子どもの一冊全

著者　尺秀三郎

前號に一寸紹介はして置イたが本書は、外國語學校教授尺秀三郎氏が、ブロス氏の原著を譯して更に加筆せられたるものなり、記述せる事柄は、子供保育上の取扱に就きて、世界各國の事例を取り調べ、一々之を圖解して其可否得失を論じたれば、歐羅巴の文明諸國に於ける子供の取り扱ひ方より、亞弗利加内地の野蠻人の仕方に至るまで本書を攝くに由りて一目瞭然たることを得べく、從つて文明を以て誇れる歐洲の育て方にも、尙古來の弊風として感心の出來ぬ所のあるとも分れば、我が日本の育て方にも、野蠻人の仕方に似たもの、あるをも知るを得べし、尙詳にいへば、第一章子供の臥させ方より始めて、抱き方、負ひ方、搖り方、坐らせ方、歩ませ方等に分ちて、一々各國の風習を細密懇切に記載したる上、結論に於て、我國現時の育兒上の注意をも物されたるなり。從來子供の保育につき、食物、病氣等に付きての書物は數多く出でたれども、此種類のは未だ嘗て見たることなかりし、從つて食餌法等には、隨分八釜しく注意せる母達の中にも、眠らせる上、守りする上に於て存外不注意なる仕方を取りし人々も多かりし樣なり。育兒に心を用ふる人、子供の立派に育たん事を願ふ母達、さては小學校、幼稚園等に於ては子供を扱ふ人々には是非とも必讀の良書と信ず。

（牧　羊）